

視能訓練士学科(昼間部 1年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要
							前期	後期	
専 門 基 礎 分 野	心身 の 発 達 と 人 体 の 構 造 及 び 機 能	解剖生理学 I Anatomy Physiology I	必修	講義	30	(2)	30		身体の各器官の位置・形状・構造の正常構成と正常機能が理解できるようにになる。
		解剖生理学 II Anatomy Physiology II	"	"	30	(2)	30		解剖生理学 I の学習をもとに、正常人体と比較し、病気の成り立ちが理解できるようにになる。
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	臨床心理学 Clinical Psychology	"	"	15	(1)		15	心理アセスメントを通し、自らの性格傾向を知ると同時に、検査・治療・訓練を受ける患者の心理を理解し、より良い信頼関係を形成する為の手法が説明できるようにになる。
		小児病学 Pediatrics	"	"	15	(1)	15		小児の生理・発達、及び代表的な全身疾患ならびに精神障害について学習し、症例検討ができるようになる。
		眼疾病学 Ophthalmic Disease Studies	"	"	30	(2)	30		両眼視機能の障害を含め、数々の眼科的疾患及び眼科関連全身疾患について解剖学的部位別に系統立てて学習し、疾患と各種検査の関連の学習や成人と小児の疾患の違いを視能矯正学と関連付けて考えられるようになる。
		看護学概論 Basic Nursing Process	"	"	15	(1)	15		看護学の位置づけとその役割を予防医学、清潔不潔の概念や救急処置の方法を通じて学習し、看護師と視能訓練士とのより良い連携を考えられるようになる。
	視 覚 機 能 の 基 礎 と 検 査 機 器	医療光学機器概論 Basic Medical Engineering	"	"	30	(2)	30		機器の基本原理・操作・安全性について知識・技術を習得し、新旧の医療機器に対応できるようにになる。
		数学・統計学・情報処理 Mathematics /Statistics/Information Science	"	"	15	(1)	15		統計・確率等の数学的分野を学ぶと同時に医学分野における統計学の必要性を理解し、基礎的な統計処理ができるようになる。
		物理学 Physics	"	"	15	(1)	15		物理学の法則や原理について幾何学的に関する分野を中心に学習し、作図や計算ができるようになる。
		視器の解剖生理・病理学 Eyeball Anatomy Physiology Mediclics	"	"	30	(2)	30		眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理・病理について学習し、各部位の機能が説明できるようにになる。
		視器の解剖生理・病理学実習 Eyeball Anatomy Physiology Mediclics (lab)	"	実習	30	(1)	30		視器に関する様々な検査について学習し、検査を行うことができるようになる。また、正常値の説明や検査結果の評価ができるようになる。
		医療情報学 Medical Informatics	"	講義	15	(1)		15	医療の仕組み、病院・医院の定義などを学び、医療機関での視能訓練士を取り巻く環境やチーム医療について理解できるようになる。
	保 健 医 療 福 祉 と 視 覚 障 害 の リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 理 念	関係法規・医学概論 Basic Medicine	"	"	15	(1)	15		医学全般を要約しつつ、その進歩の歴史や基本的知識を学ぶ。また視能訓練士法の内容を習熟し特殊専門性の意義を理解できるようにになる。
		視覚障害総論 I Visual Disorder I	"	"	15	(1)	15		視覚障害者への理解を深め、眼科リハビリテーションにおける視能訓練士の役割を考えられるようになる。
		視覚障害総論 II Visual Disorder II	"	"	15	(1)		15	視覚障害に関わる法律、等級、補助具について学び、補助具の選定や情報提供の基礎知識を説明できるようにになる。

視能訓練士学科(昼間部 1年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要
							前期	後期	
専 門 分 野	基礎視能矯正学	視能矯正学総論Ⅰ Basic Orthoptics I	必修	講義	30	(2)	30		外眼筋の作用と眼球運動、輻湊・開散・調節の関連性、両眼視の定義・発達・生理・障害について学習し、説明できるようになる。
		視能矯正学総論Ⅱ Basic Orthoptics II	〃	〃	30	(2)		30	斜視・弱視の基本的知識、定義と分類を系統的に説明できるようになる。
		生理光学Ⅰ Physiological Optics I	〃	〃	45	(3)	45		屈折異常の成因や概念を学び、屈折検査の理論が説明できるようになる。眼鏡、コンタクトレンズの基礎知識を理解できるようになる。
		生理光学Ⅱ Physiological Optics II	〃	〃	15	(1)		15	眼球の光学的機能を理解し、その矯正に関する光学的な計算ができるようになる。
		生理光学実習 Physiological Optics(lab)	〃	実習	60	(2)	60		生理光学の基礎をふまえた上で屈折検査、調節検査の方法、コンタクトレンズの調整や装用練習に至るまで実際の光学機器を用いて、理論に基づいた検査ができるようになる。
	視能検査学	視覚生理学Ⅰ Visual Physiology I	〃	講義	45	(3)	45		視覚は、眼の光学系・視覚伝達系及び目の運動系（眼球運動・瞳孔運動・調節・開閉運動）からなり、脳で統合される情報処理機構であることを統合的に理解し、視覚経路の生理・解剖について説明できるようになる。
		視覚生理学Ⅱ Visual Physiology II	〃	〃	15	(1)		15	視覚生理学的観点から症例検討し所見・検査・治療を考えることができるようになる。
		視覚生理学実習 Visual Physiology(lab)	〃	実習	60	(2)	60		視野検査、明・暗順応、電気生理学的検査、色覚検査などの仕組みを理解し、検査ができるようになる。
		視能検査学Ⅰ Orthoptic Examination I	〃	講義	30	(2)	30		各検査機器について原理と基本操作について説明できるようになる。また、視能検査を実施するにあたり、必要な説明ができ、良好なコミュニケーションを取ることができるようになる。
		視能検査学Ⅱ Orthoptic Examination II	〃	〃	15	(1)		15	視能検査について基本的な手技と検査説明を踏まえ、症例レポートが書けるようになる。
		視能検査学実習 Orthoptic Examination (practical training)	〃	実習	30	(1)	30		屈折検査、視能矯正検査、視野検査などあらゆる自覚的検査について手技の実習と、患者説明ができるようになる。
	視能障害学	眼科薬理学 Ophthalmic Medication	〃	講義	15	(1)	15		視器に関わる自律神経系・中枢神経系。末梢神経系の働きと、それらの神経に関わる薬剤の効果、ならびに眼疾患・眼科関連全身疾患と薬剤の主作用・副作用、投与方法の違いによる留意点、成人・小児の違いによる投与の留意点が理解できるようになる。
		神経眼科学Ⅰ Neuro Ophthalmology I	〃	〃	45	(3)	45		脳神経の機構と視路及び眼球運動経路の解剖・生理を理解し、視交叉より末梢の視路障害、核上性障害、視神経・外側膝状体・皮質障害に関して理解できるようになる。
		神経眼科学Ⅱ Neuro Ophthalmology II	〃	〃	30	(2)		30	神経眼科学で学んだ基礎をもとに、視路の仕組みや正常値・異常値・検査機器の仕組みについて学習し、高齢者・成人・小児のそれぞれの対象者への方法を考えることが出来るようになる。

視能訓練士学科(昼間部 1年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1年		講義概要
							前期	後期	
専 門 分 野	視 能 訓 練 学	視能矯正学各論Ⅰ Detailed OrthopticsⅠ	必修	講義	30	(2)	30		両眼視機能検査と眼位の検査について理解し、視能矯正に必要な基礎知識が理解できるようになる。
		視能矯正学各論Ⅱ Detailed OrthopticsⅡ	"	"	30	(2)	30		斜視の各型、内斜視・外斜視・交代性上斜位・その他の斜視の臨床的特徴と検査・治療法について学び説明できるようになる。
		視能矯正学各論Ⅲ Detailed OrthopticsⅢ	"	"	30	(2)		30	麻痺性斜視のほか特殊斜視の臨床的特徴と検査・治療法について学び、説明できるようになる。
		視能矯正学各論Ⅳ Detailed OrthopticsⅣ	"	"	30	(2)		30	眼振の病因論・分類・治療法、心因性視力障害、眼球運動障害の検査・治療法について学び、説明できるようになる。
		視能矯正学実習Ⅰ Orthoptics (lab)Ⅰ	"	実習	30	(1)	30		視能矯正学の講義をもとに、弱視検査・斜視検査・両眼視機能検査・眼球運動検査などを実習し、基本的な手技が実践できるようになる。
		視能矯正学実習Ⅱ Orthoptics (lab)Ⅱ	"	"	30	(1)		30	視能矯正学の講義をもとに、弱視治療・斜視治療に関わる検査などを実習し、症例検討レポートが書けるようになる。
	実 臨 習 床		臨地実習 Clinical Training	"	"	495	(11)	135	360
	国 家 試 験 対 策	国家試験対策演習 Prep for National Examination	"	演習	30	(2)		30	これまでの総復習を行い国家試験に向けて、出題傾向分析、自己の成績分析ができるようになる。合格レベルの実力を身につけ、さらなる実力の向上を図れるようになる。
		総時間数			1485	(69)	855	630	